日刊工業新聞

年月日	22	09	02	ページ	05	NO.	

日本を変える 17Goals ▽161△

SDGs導入体験を伝授

サラヤSBS

社内に定着

植物系洗剤メーカーのサラヤ（大阪市東住吉区、更家悠介社長）と言えば、持続可能な開発目標（SDGs）に取り組む中小企業として知られる。政府が主催する「第1回ジャパンSDGsアワード」（2017年）も受賞した。

その同社が培ったSDGs活動の知見を広める会社がサラヤエスビーエス（サラヤSBS、大阪市東住吉区）だ。サラヤのサステナビリティ推進本部を独立させる形で20年に創設。製造業のサラヤにとっては異色のコンサルティング会社だ。

サラヤSBS初代社長の根本三千夫氏は、サラヤで品質本部長を務めた。経営陣にサステナビリティ推進本部の設置を提言した張本人だ。サラヤはSDGs企業として定評があっても「社内の末端まで活動が浸透していなかった」（根本社長）という。そこで品質管理で使いこなしたPDCA（計画、実行、評価、改善）サイクルを駆使し、社内にSDGsを定着させた。サラヤSBSはその成果を社外に提供する。

SDGsを理解するワークショップ。現場に導入した生の体験を伝授

旅行会社に提案

だが設立早々、新型コロナウイルスの流行があって出鼻をくじかれた。その影響もあり、感染症で打撃を受けた観光業へのSDGs浸透を手助けする。サラヤと業種が違っても「SDGsの概要を教えるだけでは多いが、現場に導入した〝生の体験〟を伝えられる講師は少ない」（根本社長）と強みを強調する。

海岸に漂着したゴミ拾いに参加してSDGsを実体験できるツアー企画を旅行会社に提案した。自治体にはゴミ処理負担の軽減や観光客の滞在による経済効果、旅行会社は本業を通じたSDGs活動になる。

海外の漂着ゴミを回収するツアーを提案。旅行業界や自治体に貢献

業界の垣根越え

ほかにも地方銀行からの依頼で融資先を支援し、事業による社会貢献を整理して社外発信のポイントを伝授している。「たくさんの人に会うと、いろいろなアイデアが出てくる」（同）とやりがいを語る。

サラヤと畑違いの業種でも接点を持つことが、ビジネスにつながっている。業界の垣根を越えたパートナーシップを呼びかけるSDGsの実践だ。

無断転載・複写禁止ⓒ㈱日刊工業新聞社